クリニカルスキルアップセンター センター長就任のご挨拶

クリニカルスキルアップセンター センター長　長尾(ながお)　大志(たいし)

9月1日付でクリニカルスキルアップセンターのセンター長を拝命しました長尾大志と申します。このたびいただいた役割の責任の重さに、改めて身の引き締まる思いです。

クリニカルスキルアップセンターは、医学科および看護学科の病院実習の一環として、聴診や採血などの医療手技や患者急変の対応などを学ぶ場として活用されるとともに、模擬患者さん向けの勉強会を定期的に開催しています。また島根県内の病院で働く医療者を対象としたセミナーを企画し、県下の医療従事者の卒後教育にも貢献しているところであります。

前センター長の狩野先生はじめ、センターの皆様の大変な御努力によりまして、シミュレーターを用いたスキルアップセンターとしては島根県の唯一最大の施設として、これまでも大いに活用されていたところであります。ところが2020年以降、COVID-19の流行に伴う移動の制限や3密を避ける方策等により、現地でのスキルアップセミナー等の開催が避けられるようになり、数年間は当センターの稼働も少なくなりました。しかし本年5月の「新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行」以降、移動や接触の制限が解除され、以前のようなにぎわいを取り戻しつつあるところです。

私自身は島根大学において、スキルアップセンターの設備、およびスタッフの皆様の豊富なご経験に助けていただきながら、ますます卒前教育の理想形を追求して参る所存であります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームページ ▶▶▶ https://www.clinicalskillup.jp/

お問い合わせ　クリニカルスキルアップセンター　TEL:0853-20-2551

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

11月15日～12月14日　対象者：一般　一般市民　医療　医療関係者　本学　本学教職員・学生

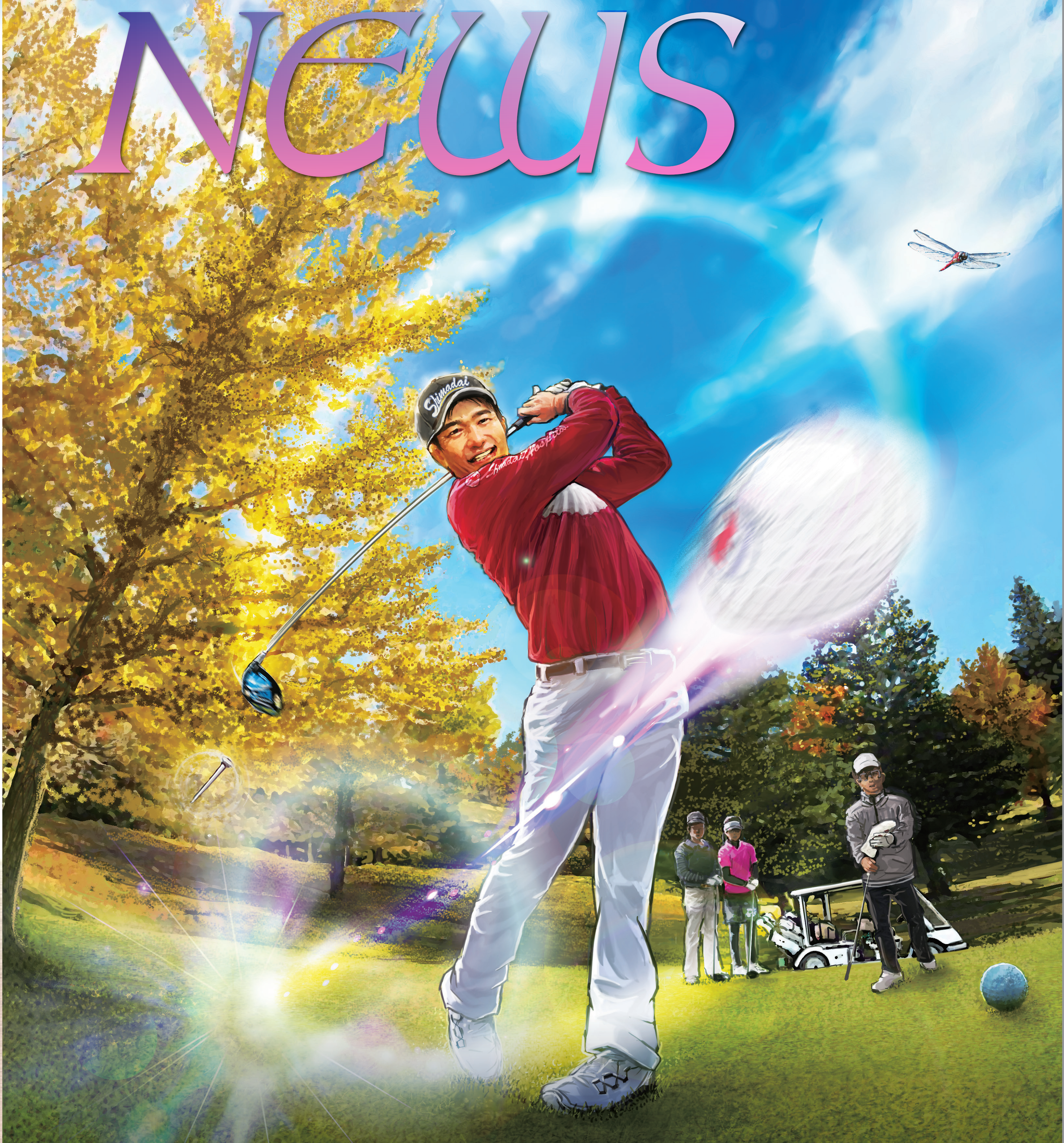
開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/1(金)～11/30(木)	令和5年度　第2回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センターホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院肝疾患相談・支援センター
11/18(土) 12:50~17:00	第36回島根県がん登録研修会	Zoomにてオンライン配信	医療	島根大学医学部医療サービス課
11/25(土) 13:30~15:30	出雲市民フォーラム 「小児の外科治療～最前線～」	島根大学医学部臨床小講堂	一般 本学	島根大学医学部総務課企画調査係

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.121 2023 11 島大病院ニュース
2023年11月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

Shimane University Hospital
島大病院ニュース
2023年 11月 Vol.121

NEWS



表紙：歯科口腔外科　教授　管野　貴浩

CONTENTS

中表紙
・恐れのない組織
～心理的安全性が学習・イノベーション・成長をもたらす～
・地域医療政策センター　教授就任のご挨拶
裏表紙
・クリニカルスキルアップセンター
センター長就任のご挨拶
・研修会・講演会・セミナー開催情報

恐れのない組織
～心理的安全性が学習・イノベーション・成長をもたらす～

副病院長（研究・教育担当）　鬼形（おにがた）　和道（かずみち）

「恐れのない組織」この本は、ハーバード・ビジネススクールのエイミー・C・エドモンドソン教授が書かれた“The fearless organization”の邦訳です。心理的安全性のパワー、職場の心理的安全性、そしてフィアレスな組織を作る、の3部構成となっています。病院におけるチーム医療だけでなく、教職員が所属する様々な組織を活性化させるメッセージが多数含まれています。

著者が作成した心理的安全性に関する意識調査は7項目からなりますが、「このチームでミスをしたら、きまって咎められる」、「このチームでは、メンバーが困難や難題を提起することができる」などが含まれます。皆さんの職場では、沈黙の文化や同調圧力は存在しないでしょうか？職場の構成員が率直に、あるいは素直に自分自身の言葉を使って意見を述べ合える環境を醸成してまいりましょう。

病院内の小さな組織から大きな組織まで、その運営、コミュニケーション、そして構成員の貢献などを心理的安全性という視点・視座から眺めることは大切です。研究・教育担当副病院長として、「慎独」の精神（誰が見ていようが、見ていまいがポイ捨てはしない）を持って、当院に貢献してまいります。皆さま方からのご意見に耳を傾けたいと存じます。

地域医療政策センター　教授就任のご挨拶

地域医療政策センター　教授　近藤（こんどう）　正宏（まさひろ）

10月1日付で地域医療政策センター教授を拝命いたしました近藤正宏です。

現在島根県では医師不足、診療科偏在による医療格差という大きな問題を抱えています。高齢化が進み、交通アクセスが悪い地域で適切な医療を受けることができないということは、そこに安心して人が住むことができない、すなわち地域の崩壊を意味します。

地域医療政策センターでは、地域を守るため医療地域格差を是正することが第一の使命となります。そのためには適切に地域に医師を派遣し、また地域に医療ネットワークや遠隔診療のシステムを作ることで、地域で働く医師や医療機関をしっかりとサポートしていく必要があります。一方、医師の働き方改革によって2024年から時間外労働の上限規制が設定されることになっており、地域に医師を派遣する大学病院の医師も例外ではありません。そうした中にあっても地域への医師派遣を継続するためにはタスクシフト、タスクシェアも含めた医師業務の効率化もあわせて行なっていく必要があります。

地域医療政策センターでは、地域と地域の医療をまもり、また医師の過重労働を減らすことで安全な医療を提供し、医師もやりがいを持って仕事に取り組んでいけるよう、今後さまざまなことに取り組んでいきたいと考えています。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先　地域医療政策センター 事務室　TEL：0853-20-2196

Shimane University Hospital

ご報告

強度変調放射線治療（IMRT）の拡充に取り組んでいます

放射線治療科　診療科長　玉置（たまき）　幸久（ゆきひさ）

強度変調放射線治療（Intensity Modulated Radiation Therapy：IMRT）とは、高精度放射線治療の一種です。放射線を照射する過程で治療領域内の放射線の強度を調節し、腫瘍病巣に対して集中的にかつ精密に照射を行うことができる手法です。同時に、周囲の正常組織への線量を抑えることができ、放射線治療に伴う副作用を軽減することができます。

当院では、以前は前立腺癌など一部の癌腫で IMRT を行っておりましたが、本年 5 月に新しい放射線治療機器が導入され、現在 IMRT の対象疾患を拡大しています。

図 1 は食道癌に対する IMRT の線量分布図です。食道癌では脊髄が病巣の近傍に位置しており、脊髄の線量低減が重要となります。IMRT の技術を用いることで、脊髄をうまく避けつつ、病巣に必要な照射線量を投与できます。

図 2 は悪性脳腫瘍に対する IMRT の線量分布図です。脳幹は一定線量以上の放射線が照射されると脳幹障害のリスクが高まります。IMRT によって、脳幹への照射を適切に避けて線量低減を図りながら、病巣に対しては充分な照射線量を投与することができます。

IMRT は病巣に充分な線量を投与し、かつ正常臓器への線量を低減できる非常に重要な放射線治療技術です。今後ますます普及し、将来の放射線治療の標準的な照射手法になると考えられます。

当科ではこれからも IMRT の積極的な拡充に取り組んでまいります。

IMRT の適応に関するご相談がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

写真 1

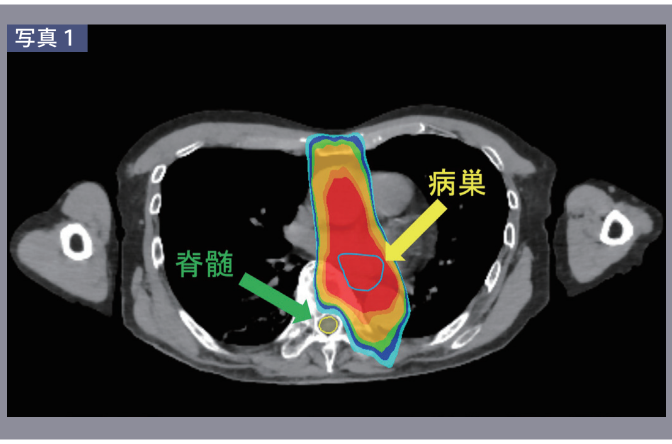
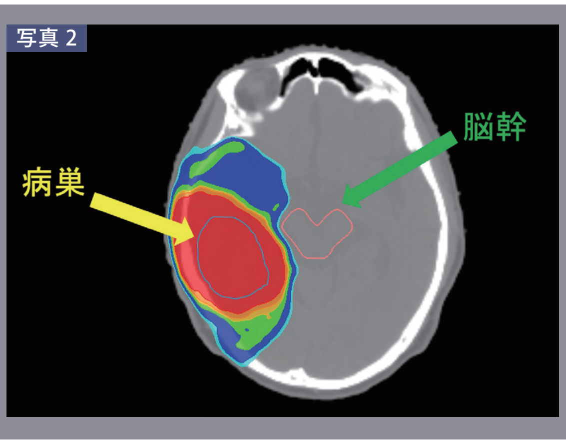


写真 2



問合せ先　放射線治療科　TEL：0853-20-2582

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

栄養サポートセンターについて

栄養サポートセンター　センター長　矢野（やの）　彰三（しょうぞう）

栄養状態は、生命予後、治療成績、術後合併症、入院期間に大きく影響することが知られています。栄養サポートチーム（NST）は、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、リハ療法士などの多職種で構成され、やせの進行、食欲不振、火傷・褥瘡や手術前後の患者さんに対し、おもに栄養改善を目的としたチーム医療活動を行っています。

2020 年度の診療報酬改定では、早期に栄養改善を図る目的で「早期栄養介入管理加算」が新設されました。当院でも集中治療室（ICU）に経験豊富な管理栄養士を一定数配置しています。来年度から開始される医師の働き方改革とそれに伴うタスクシェア・タスクシフトも重要な課題です。このような流れに対応するため、当院は管理栄養士を増員し、NST 専従を専任に移行しました。

2023年度　栄養セミナー（学外向）

栄養管理に必要な栄養評価、経腸栄養、点滴などについて学びます。みなさまのご参加をお待ちしています。

場所：みらい棟4Fｷﾞｬﾗｸｼｰ
講師：矢野　彰三先生（栄養サポートセンター長）

日程	時間	内容
6月7日	16:30～17:30	栄養障害例の抽出・早期対応
7月5日	16:30～17:30	栄養療法に関する問題点・リスクの抽出
8月2日	16:30～17:30	栄養療法に関する合併症の予防・発症時の対応
8月2日	17:30～18:30	経腸栄養・経口栄養のプランニングとモニタリング
8月30日	16:30～17:30	栄養薬剤・栄養剤・食品の選択・適正使用法の指導
9月6日	16:30～17:30	経静脈栄養のプランニングとモニタリング
9月6日	17:30～18:30	経静脈栄養剤の側管投与法・薬剤配合変化の指摘
10月4日	16:30～17:30	栄養管理についての患者・家族への説明・指導
10月4日	17:30～18:30	在宅栄養・院外施設での栄養管理法の指導
NST研修会（10月29日、参加無料）		経静脈輸液適正調剤法の習得
NST研修会（10月29日、参加無料）		経腸栄養剤の衛生管理・適正調剤法の指導、簡易懸濁法の実施と有用性の理解

●このセミナーに出席し、さらに病棟実習および症例報告の提出（1例）を行った方には、日本臨床栄養代謝学会「栄養サポートチーム専門療法士」認定規程に基づく臨床実地修練修了証明証を発行いたします。費用は、1回につき2,200円です。本セミナー参加希望の方は、事前に申込を受付けますので、お早めにご連絡ください。

問合せ先：総務課企画調査係　TEL: 0853-20-2019　Fax: 0853-20-2025
mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp　主催：栄養サポートセンター

例年、医療スタッフ向けの栄養セミナーと NST 研修会を実施しています。今年度の栄養セミナーには、県内の 5 医療機関から計 13 名（管理栄養士 6 名、看護師 4 名、薬剤師 3 名）の参加がありました。来年度も実施予定です。NST 専門療法士を目指す方はお早めにご連絡ください。また、今年の NST 研修会は、10 月 29 日に開催し、集中治療部・二階哲朗先生に急性期医療における栄養治療の重要性と当院 ICU-NST 活動の取り組みについてご講演いただきました。患者さんにとって大切な食事と栄養について、共に学び、考え、支えて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

お問い合せ先

栄養セミナーに関する問い合せ先
総務課企画調査係　TEL **0853-20-2019**　mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp
栄養治療室　TEL **0853-20-2074**　nst@med.shimane-u.ac.jp

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

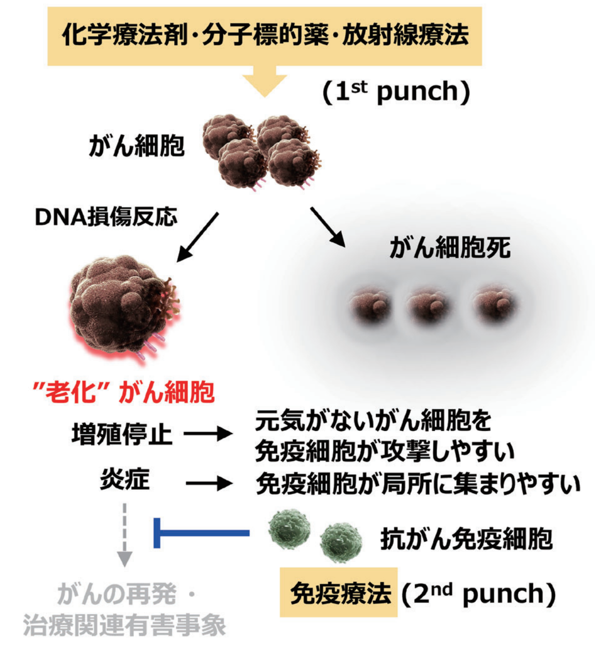
ご報告

One-two punch戦略でがんの再発を防ぐ

免疫学講座　教授　原田（はらだ）守（まもる）

図１

One-two punch 戦略によるがん治療モデル



がんに対して様々な治療法が開発されてきました。そして、（がんに対する免疫細胞の攻撃を抑制しているブレーキを解除する）免疫チェックポイント阻害抗体療法や（普通の免疫細胞に遺伝子操作によりがんに対する特異性を付与する）CAR-T 細胞療法など、がん免疫療法が注目されています。しかし、治療効果をさらに高めるためには、他のがん治療との併用が必要と考えられます。

抗がん化学療法剤・分子標的薬・放射線療法の主な目的は、がん細胞死を誘導することです。しかし、大部分のがん細胞に細胞死を誘導できても、一部のがん細胞は遺伝子（DNA）の損傷反応を利用して生き残ります（図１）。それらの細胞は、正常細胞が加齢に伴い " 老化 " する場合と同じ特徴を示し、治療誘導性 " 老化 " がん細胞と呼ぶことができます。そして、それらの細胞は、増殖を抑制・停止することにより治療抵抗性を獲得し、さらに、様々な炎症を生じるタンパク質を産生して、がんの再発・転移を促すと考えられています。しかし別の視点からは、がん細胞として活力が低下しており、また、局所の炎症は免疫細胞が集まりやすい状況と言うこともでき、免疫療法にとって好都合です。

そこで免疫学講座では、抗がん化学療法剤・分子標的薬による 1st punch と、その後、2nd punch として免疫療法を組み合わせた one-two punch の戦略でがんの再発を防ぐ治療モデルを考案し、その有効性を試験管内での実験やマウスモデルを用いた研究で検証することにより、がんの再発を効果的に防ぐことができる複合的がん治療法の確立に取り組んでいます。

問合せ先　免疫学講座　教授室　TEL：0853-20-2150

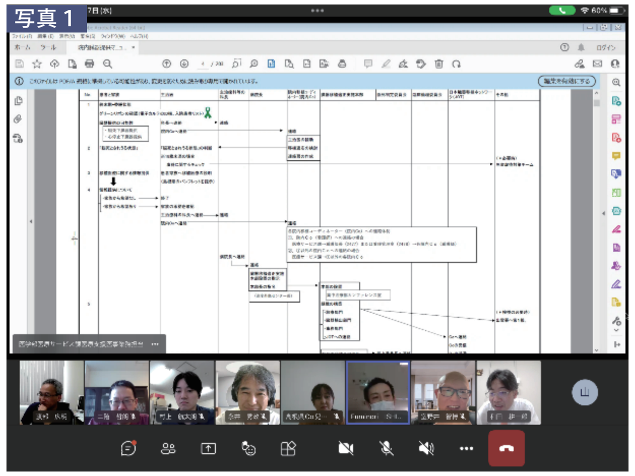
ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

移植医療の普及に向けて

院内臓器移植シミュレーションを実施しました！

院内移植コーディネーター　一同



９月 27 日（水）に院内の移植コーディネーターを中心に、島根県臓器移植コーディネーターの方にも参加いただき、アドバイスを得ながら、臓器移植の院内シミュレーションをオンラインで行いました（写真１）。

院内移植コーディネーターは院内における移植医療に関する知識の普及啓発および臓器提供体制の整備、臓器提供発生時や移植時における関係機関との連絡・調整を円滑に行うことを目的として医師、看護師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカー、事務職員等多職種で組織しています。

今回のシミュレーションは、昨年度改訂を行った「臓器提供院内マニュアル」中のフローに沿って、臓器提供の意思のある患者が脳死と判断されうる状態になった場合を想定して、脳死判定に係る判断の手順や、患者家族への移植医療に係る情報提供の方法、院内の実施体制、院外関係機関への連絡方法、法律や日本臓器移植ネットワーク（JOT）の定めるルール等臓器移植に係る一連の流れを院内移植コーディネーターやその他の関係部署で確認しました。

これまで会議で議論を重ねて作成したフローでしたが、実際の流れを想定してそれぞれの部署で役割を確認すると、不足している手順やさらに考慮すべき事項に気付き、それがどういった背景で必要であるかということをお互いに認識することができました。

引き続き、院内移植コーディネーターは腎移植センターやその他の関係部署と協働し、移植医療の普及啓発や院内での体制整備に努めてまいります。

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

出雲市民フォーラム
「島根大学病院の最新治療」2023秋を開催しました！

総務課企画調査係

10月29日（日）に、島根大学医学部臨床小講堂において今年3回目となる出雲市民フォーラムを開催しました。

今年は一貫して当院の最新治療についてご紹介しておりますが、今回は「高齢者に多い心臓（血管）と脳の病気」をテーマに開催し、約120名にご来場いただきました。

はじめに、今年7月から着任した心臓血管外科の山﨑教授が大動脈瘤について、次に脳神経内科の長井教授が新薬「レカネマブ」が注目される認知症について、最後に今年8月から脳神経外科の教授にも就任した高度脳卒中センターの林教授が脳卒中について、スライドや動画を交えてわかりやすくご紹介しました。

講話後の質疑応答では、「静脈にも瘤ができるか」「睡眠不足と認知症の因果関係について」「脳出血時の症状はどんなものがあるか」など、たくさんのご質問をいただきました。

お忙しい中お越しいただきました皆さまへ深く感謝申し上げます。今後も当院の活動内容や最新治療に関する情報を、市民フォーラムなどを通じて今後も広く発信して参ります。

次回（11月25日（土））は心臓（血管）と脳の病気の小児編をテーマとして、小児外科治療に特化したフォーラムを開催予定です。ぜひ皆様のご来場をお待ちしております。

問合せ先　総務課企画調査係　TEL：0853-20-2531

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2023年11月

ご報告

写真1

写真2

第20回
島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

総務課総務係

10月26日（木）に、医学部臨床講義棟2階臨床大講堂において「第20回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置し、毎年1回開催しており、今年で20回目を数えます。会議には、島根県内45関連病院の病院長等と、椎名病院長を始めとする当院関係者50名が出席しました（写真1）。

冒頭で椎名病院長から挨拶があった後（写真2）、本年10月1日に医学部長に就任した石原医学部長より発言がありました。引き続いて、地域医療に関する病院の取組みとして、島根県医療的ケア児支援センターの取組み、地域医療政策センターの紹介、医学教育が求めるものについて、説明しました。また医療安全に関連する病院の取組みとして、手術支援センターがなすべきこと、求められる集中治療、その後、先進的な医療技術の地域への還元として、心臓血管外科のトピックス、乳腺センターの果たす役割、肝移植再開へ向けての取組み、高度脳卒中センターの活動状況、認知症の診断と予防、治す膠原病、IKURAとは何か、について説明しました。

最後に椎名病院長より、当院の理念である地域医療と先進医療が調和する大学病院としての役割を十分認識し、関連病院の皆様のご意見を取り入れ、日々改善に努める旨をお伝えし閉会しました。

問合せ先　総務課総務係　TEL：0853-20-2506

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

写真１：集合写真

写真２：ネイチャートレイリング（観察ポイントで自然からの問いかけに答えながら、ゴールをめざしました）

in三瓶

新人看護職員リフレッシュ研修

看護部長　川上（かわかみ）　利枝（としえ）
副看護部長　周藤（すとう）　幸子（さちこ）

新人看護職員は、入職して半年となり職場環境にも慣れ、社会人として医療チームの一員としての自覚を持ち毎日頑張っています。徐々に看護実践できる幅も広がっており、同時に任される業務も増え不安や緊張の毎日です。

そこで、職場を離れリラックスした雰囲気の中で新人同士の親睦を図り、仲間意識を深めることを目的に、10月12日（木）に国立三瓶青少年交流の家にて新人看護職員リフレッシュ研修を４年振りに行いました（写真１）。天候に恵まれ、さわやかな青空のもと活動を行うことができました。自然とふれあうネイチャートレイリング（写真２）やチャレンジ・ザ・ゲーム（人間関係トレーニング）（写真３）を行い楽しく盛り上がりました。

院外でのリフレッシュ研修を通して、人間関係を構築する上で大切なこと、アイデアを出し合いチームで協力し合うこと、コミュニケーションの大切さなどを学ぶことができました。何より、同期との交流が図れ、絆も深まり、今後仕事をする上での活力になったのではないかと思います。知識・技術だけでなくリフレッシュメントや精神面へのサポートをする研修など、働く職員に合わせて研修を組み立て、患者さんやご家族に安心いただける看護が提供できる看護職の育成に取り組んでいきます。

写真３

チャレンジ・ザ・ゲーム「ポーキューパイン」
（みんなでアイデアを出し合い、チームで協力して作り出しました）

問合せ先　看護部看護管理室　TEL：0853-20-2478

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2023年11月

ご報告

活動紹介

医学生が学会運営に挑戦しました！

島根大学医学部医学科4年　学生ボランティアリーダー　鈴木（すずき）　裕希（ゆき）、中島（なかしま）　悠貴（ゆうき）

2023年7月15日（土）～7月16日（日）、第15回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会が島根大学医学部で開催されました（大会長：白石吉彦先生（隠岐島前病院参与／当院総合診療医センター長））。全国から医療関係者の方々延べ300名以上が参加されました。本学術集会では、島根大学医学部と総合診療医センターの支援のもと、学会運営を島根大学と他大学の医学生約30名で行いました。

学会運営は、専門の業者に依頼するのが一般的です。しかし、本学会は島根大学医学部が会場ということで、「オール島根」で島大生が主体となって学会を盛り上げていこうという趣旨があり、今回学生が運営に約２か月間携わりました。

当初は、学会運営を学生が行うことに戸惑いや不安がありましたが、試行錯誤しながらも少しずつ形になっていきました（写真１）。最終的にはメンバーが一丸となって、一人ひとりが自分の役割を全うし、無事に学術集会を終えることができました（写真２）。来場者の方々には、「島根大学の学生さん、凄いな」と仰っていただく機会があり、我々の頑張りが少しでも伝わり大変嬉しい気持ちになりました。

今回の学会運営を行うにあたり、白石吉彦先生、坂口公太先生をはじめ、お世話になった多くの先生方、スタッフさんに心から感謝申し上げます。

写真１

学生ボランティアのオリジナルスクラブと学会運営マニュアル。全て学生ボランティアが作成した。

写真２

当日のミーティングの様子

問合せ先　総合診療医センター　TEL：0853-20-2217

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

うさぎ保育所運動会

総務課総務係

９月 16 日 (土) に体育館で運動会を行いました。今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に、３歳児・４歳児・５歳児のみの参加としました。

お父さん・お母さんに見てもらうのを楽しみにしながら練習を重ねてきた子ども達。入場行進が始まると、笑顔で手を振りながら歩く子や、保護者さんの前で緊張した面持ちで歩く子、いつもと変わらない表情で歩く子と様々でした。

５歳児が元気な声で開会の挨拶をしてくれ、運動会のスタートです。全員で " つばめ " の体操（写真１）をしてから、各組の競技が始まりました。その後に、５歳児のダンシング玉入れ（写真２）やダンス、３・４歳児のダンス（写真３）やリレーもありました。最後の競技は、５歳児親子によるリレーでした（写真４）。子ども達もお父さん、お母さんも気迫溢れる熱戦となり、応援にも力が入ってとても盛り上がりました。勝ったチームは歓喜の声が上がりましたが、負けたチームは悔しくて涙する子もいました。

閉会式では、頑張った子ども達に、お父さん・お母さんからメダルをかけてもらったり、抱きしめてもらったりして、いっぱい褒めてもらい、子ども達の表情は自信に満ちていました。

職員も、子ども達一人ひとりが競技を最後までやり遂げることができ、子ども達の心と体の成長を感じることができた一日となりました。

子ども達、みんなステキでしたよ！

写真１

写真２

写真３

写真４

問合せ先　総務課総務係　TEL：0853-20-2016

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2023年11月

ご報告

山陰初！ 乳腺センターがスタートしました！

乳腺センター　副センター長　角舎（かどや） 学行（たかゆき）

写真１

乳がんは今や全世界で男女合わせて発生するがんの第一位になり、日本人女性の９人に１人が乳がんに罹患します。乳がんの特徴として 40 代から罹患率が急上昇し、50 歳～65 歳にピークを迎えます。この年代の女性は、家庭内でも社会においても中心的な働きをする年齢ですので、乳がんの早期発見と治療は重要な問題です。

乳がんの診療の特徴としては、多職種、多部門が関わるということがあります。遺伝性乳がんについては遺伝診療部や婦人科（予防的卵巣卵管切除）が、乳房再建については形成外科、妊孕性温存については産婦人科、脱毛や乳房切除などアピアランスケア、リンパ浮腫に対しては看護部、画像診断は放射線科、放射線治療については放射線治療科、新しい治療薬の説明や副作用対策については薬剤部など、院内のほとんどの診療科が治療に関わるのではないかという感じです。

乳がん治療の多様性に対応するためと、集学的治療により進行乳がんを根治させるために乳腺センターは４月に設立されました（写真１）。板倉センター長（前列左から二人目）を中心に、腫瘍内科医である田村先端がん治療センター教授（前列左端）、副センター長である私（前列左から三人目）も含め多職種、多部門からなるメンバーで構成されています。センターとしての活動は始まったばかりですが、月に２回のカンファレンスを行いながら山積する課題をクリアしていっております。今年は乳がん診療医の数が倍増していますので、もっとたくさんの患者さんを、もっときめ細やかに診療できる体制ができました。国際治験への参加も行なっていますので、最先端の治療を出雲で受けることができます。山陰初の乳腺センターの活動に、ぜひ注目してください！

問合せ先　外科外来・乳腺センター　TEL：0853-20-2384

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

写真1：講師：北 奈央子先生

写真2：セミナーの様子

ワークライフバランスセミナーを開催しました

地域医療支援学講座　助教　堀田（ほった）　優希江（ゆきえ）

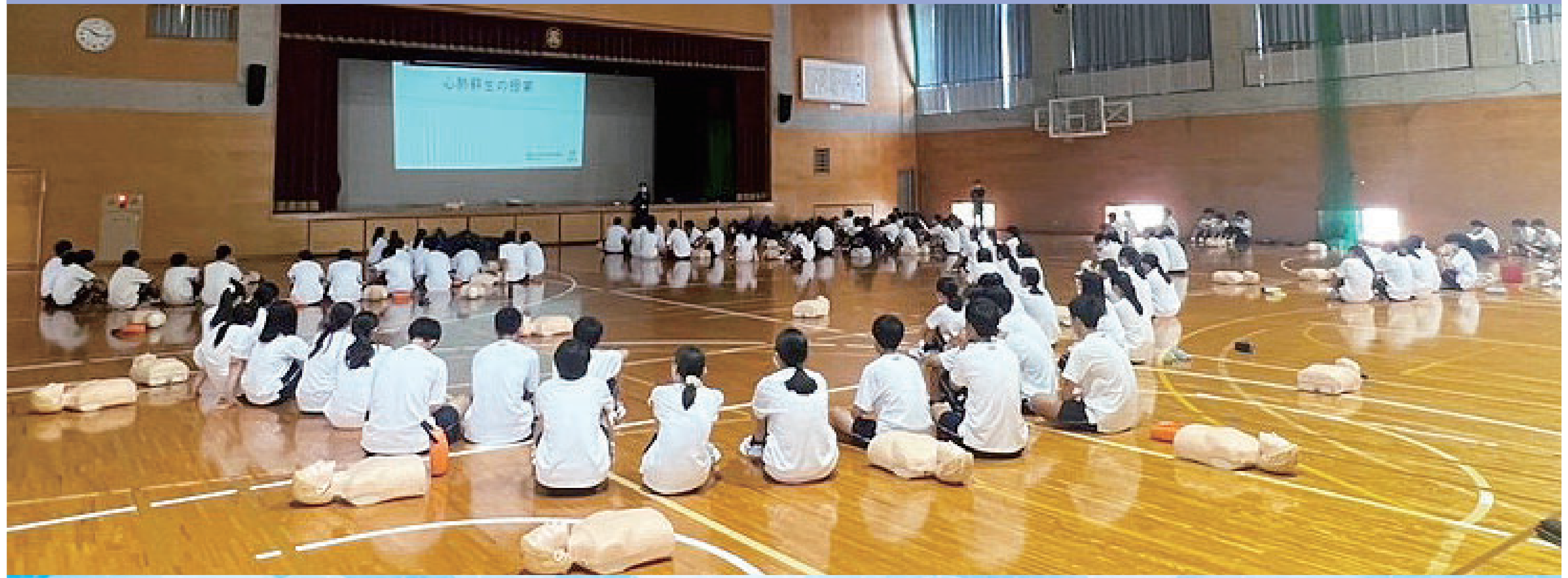
　地域医療支援学講座『えんネット』、ワークライフバランス支援室、島根大学ダイバーシティ推進室の共催にて、女性のヘルスリテラシーの研究に従事し、起業家でもある北奈央子先生（写真1）をお迎えし、9月27日（水）にワークライフバランスセミナーを開催しました（写真2）。
　ヘルスリテラシーとは健康情報を入手・理解・評価し、そのうえで行動することで実践される。つまり、自分自身を大切にすることにつながる行動です。ヘルスリテラシーは自分と向き合い、自分らしく生きられる力＝自分力であり、社会的な評価でなく、自分の判断を大切にしてほしいとお話されました。
　ヘルスリテラシーに必要なこととして①女性も男性も知識を持つこと②必要な時に行動できる環境であること③人生を主体的に生きていくことを示されました。
　また、やりたいことに対して必要なサポートを受けられる社会がワークライフバランスを実現できている社会であることをお話しいただきました。
　『えんネット』ワークライフバランス支援室でも必要な方に、適切なサポートが届くような情報提供を行っていきたいと考えております。看護師の方々をはじめたくさんの方に参加いただき盛況となったことをこの場を借りてお礼申し上げます（写真3）。ワークライフバランスセミナーは毎年開催しておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

問合せ先　地域医療支援学講座　TEL：0853-20-2558

写真3：集合写真

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

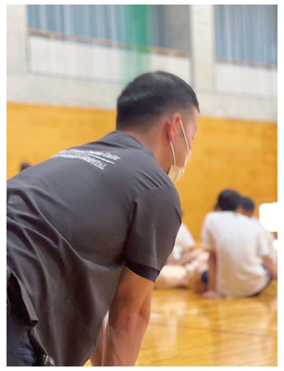
島大病院ニュース 2023年11月
ご報告


説明を聞く生徒たち

出雲高等学校で救命講習会を行いました

高度外傷センター　救急救命士　新谷（しんたに）　貴大（たかひろ）

　9月11日（月）および9月15日（金）、高度外傷センター所属の救急救命士5名が社会貢献活動の一環として出雲高等学校を訪問し、1年生を対象に救命講習会を実施いたしました。
　救急救命士のみでの一般市民向けの講習会開催は今回が初めてで、医療従事者ではなく一般市民かつ高校生を対象とする講義であったため、講義内容や方法に苦慮する点もありましたが、両日ともに無事に終了することができました。島根大学医学部附属病院の救急救命士として培った知識・技術を遺憾なく発揮し、一次救命処置の重要性を高校生にしっかり伝えることができました。
　既に他からも講習会実施のお誘いをいただいております。いただいた依頼全てに対応できるようにし、一般市民の皆様へ一次救命処置の重要性を広くお伝えできるよう努力を惜しまない所存です。


実演する当センター
日野救命士

実演する当センター
卜部救命士

問合せ先　高度外傷センター　TEL：0853-20-2757

ご報告 島大病院ニュース
2023年11月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/